



争い

— 知の総和 —

2026年
10月3日(土)
日時 13:30 (※受付開始 12:45)

会場 別府大学メディア教育・研究センター4F
メディアホール
大分県別府市北石垣82



交通アクセス キャンパスマップ

現在の世界情勢が「争い」や「戦い」を我々に強く意識させるものであることは否定できません。国際紛争により世界秩序は混乱し不安や危惧は高まっています。新型コロナウイルスに対する人類の闘争は、忍耐と共助の重要性を強調しましたが、意見の相違やそれに続く誹謗中傷が社会の分断を煽ることにもなりました。

同時にまた、「争い」が肯定的に語られる文脈も存在します。災害や疫病に対する人類の長い戦いはもとより、「競争的」や「競争力」という用語は、社会にダイナミズムを生み出す契機や、個人のアピールポイントを示す能力として重要視されています。

今年度の「講演会・ワークショップ」においては、「争い」を多様な専門的視点から深く考察します。

講演会 + ワークショップ

第1部 食物栄養科学研究科 (13:40~14:40)

微生物は敵か味方か？ ～食と健康のサイエンス～

狩生 徹 (発酵食品学科 教授)

私たちの身の回りには、多くの微生物が存在しています。食品の発酵や健康に役立つ微生物がいる一方で、感染症や食中毒を引き起こす病原菌も存在します。本講演では、食品に含まれる抗菌成分に関する最新の研究成果を交えながら、微生物との関わりや、食中毒から身を守る方法についても紹介します。

日本人はどのように菌と戦い、 菌と生きてきたか

菊間 隆志 (発酵食品学科 准教授)

日本人は有害な菌と戦う一方で、日本の国菌である「麹菌」とは千年以上にわたり共生してきました。その歴史をたどりながら、「争い」とは相手を滅ぼすことではなく、共生を可能にする関係を育む営みでもあることを考えます。

第2部 文学研究科 史学・文化財学専攻 (14:55~16:15)

石垣原合戦

白峰 旬 (史学・文化財学科 教授)

慶長5年の石垣原合戦は、当時の豊前国中津城主・黒田孝高（黒田官兵衛）、豊後国木付城代・松井康之（細川忠興の家臣）が大友吉統（旧豊後国主）と戦った有名な戦いです。九州の関ヶ原と言われることもあります。石垣原合戦は9月13日であり、その2日後の9月15日には関ヶ原本戦がおこなわれ、徳川家康が勝利しました。今回はその石垣原合戦について、通説的理解をもとに概要を考えます。

■ 学生による研究発表

「大友義統はなぜ木付城を攻めたのか」
(日本城郭研究室)

「石垣原の戦い前後における大友館の変遷」
(考古学研究室)

「石垣原合戦の前提に関する一考察
—大友義統と旧家臣・佐古局に注目して—」
(日本古代・中世史研究室)

「戦乱における地方の役割—日本史と西洋史を例に一」
(西洋史研究室)